

# 生かせ!学生の視点

## 富山市 商店街ポスター依頼 庄川峡 名所に招き意見交換 立山町 活性化策募りコンペ

大学生の視点を観光振興やまちづくりに生かそうとする試みが、県内で広がっている。富山市は、都内の学生に中心商店街のPRポスターの作成を依頼し、砺波市などは富山国際大の学生から観光施設の改善点について意見を求めた。立山町は全国の学生を対象に地域活性化策を募るコンペを企画。学生にとっても、現地に足を運び、地域の実情を知ることが貴重な経験になっているようだ。

(社会部・草東良平)



観光PR用ポスターの作成に向け、飲食店の店主(右)に取材する慶応大の学生(富山市総曲輪)

慶応大環境情報学部でコミュニケーション論を学ぶ学生23人が10日、富山市を訪れた。市から依頼された観光PR用ポスターの作成に向け、総曲輪や中央通り、西町の店主を取材。地元や仕事への思いを語る店主の言葉をメモし、夜にはポスターに入れるキャッチコピーについて意見を交わした。同市出身の3年生、神通絵里花さん(21)は「地元の人に会って話を聞くのは刺激になる。古里のためになると思うとやりがいも感じる」と笑顔を見せた。

同市は8月、全国の学生からまちづくりのアイデアを募るコンペを開催。若者の柔軟な発想をにぎわい創出に生かすのが狙いで、同大が提案したポスター作成のプランなどを採用した。コンペを運営した市の第三セクター「まちづくりとやま」の備後淳一郎長代理は「若い感性でこれまでないポスターを」と期待している。

こうした取り組みを始めたのは富山市だけではない。砺波市と庄川峡観光協同組合は5月、庄川地区の温泉街に観光を専攻する富山国際大の学生35人を招待。温泉街の活性化策を提案してもらったため、庄川水記念公園や小牧ダムなどの観光名所を案内した。

その後開いた意見発表会では、学生から「公園にある『鯉恋の宮』のお守りを作ってはどうか」「宿泊客が別の旅館の風呂に入れるようにすれば喜ばれる」といった提案が相次いだ。市商工観光課は年内にまとめる地域活性化計画に学生たちの提案を盛り込む予定で、「若者に選ばれる温泉街にしたい」と話す。

立山町は12月、観光や産業の活性化策を競うコンペを実施する。8、9月に県内外から計10大学を招き、イベントの立案などを依頼。最優秀作品については実証実験を行う考えだ。町商工観光課は「私たちが気付かない地元の魅力を発見してほしい」と願っている。

富山市に学生を引率してきた慶応大の加藤文俊教授(都市社会学)によると、まちづくりなどで、地域と学生が連携する動きは全国に広がっているという。県内ではまだ大きな効果を上げた事例はないものの、富山国際大の長尾治明教授(観光政策論)は「学生にとっても、授業では学べない有意義な体験。現場での実践の機会を与えてもらえるのはありがたい」と話している。